2027年3月期 第１四半期
決算説明資料

2026年8月6日

ダイワボウホールディングス株式会社

（証券コード：**3107**）

本日はご参加いただきありがとうございます。
ダイワボウホールディングス・IR広報室の山田と申します。
それでは2027年3月期第１四半期の決算についてご説明申し上げます。

アジェンダ

1. 2027年3月期 第1四半期決算 _P 2

2. 2027年3月期 通期業績予想 _P17

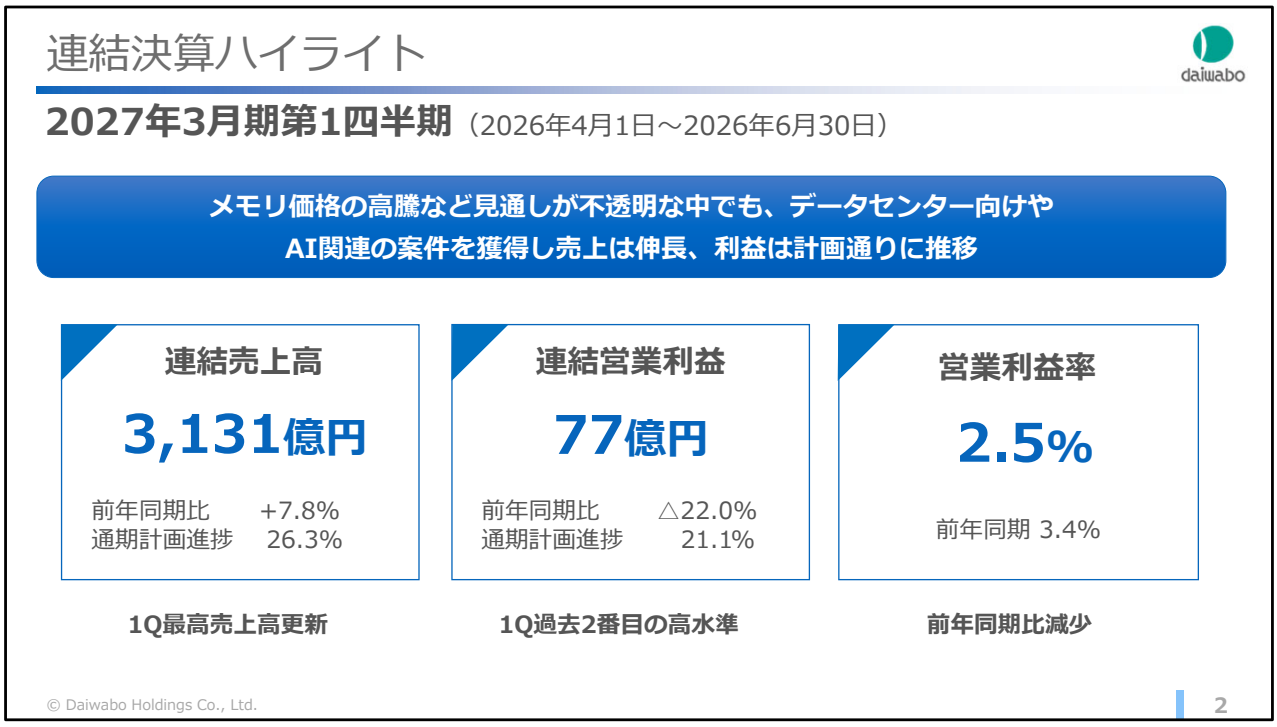
3. 株主還元 _P21

【参考資料】 _P23

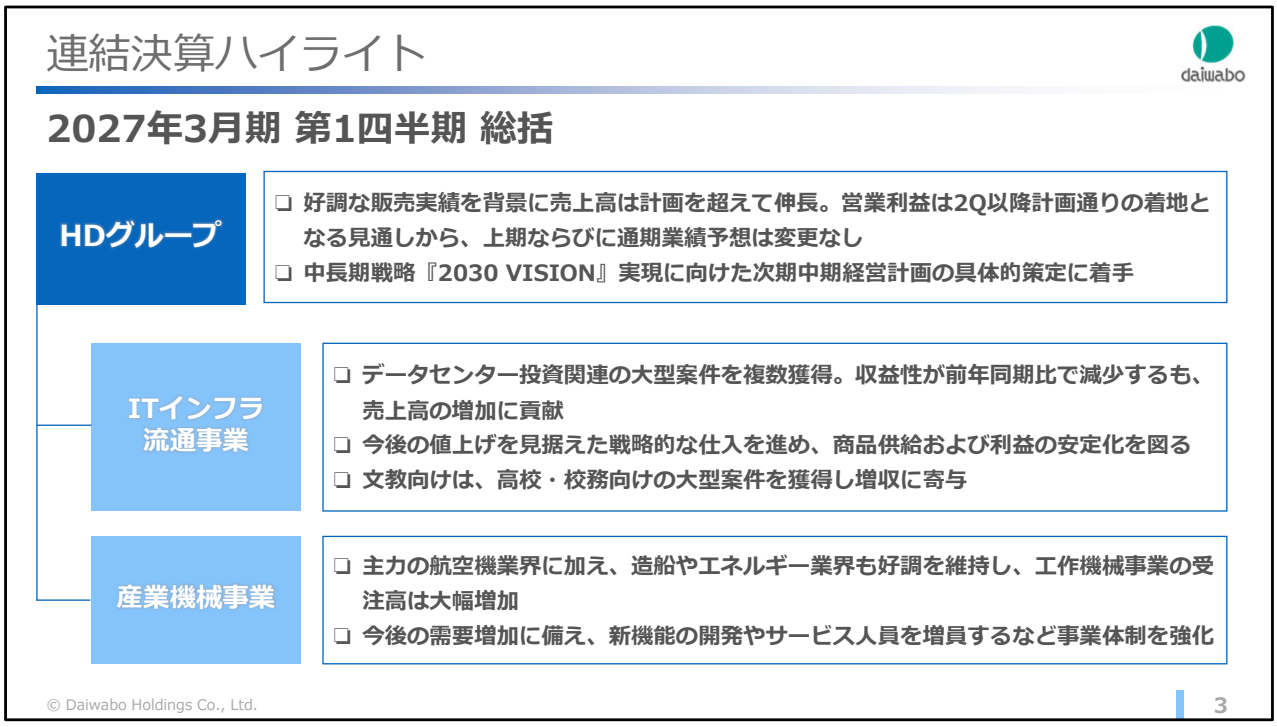
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 事業概要
- 業績推移グラフ
- 株価推移

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらの項目に沿ってご説明いたします。



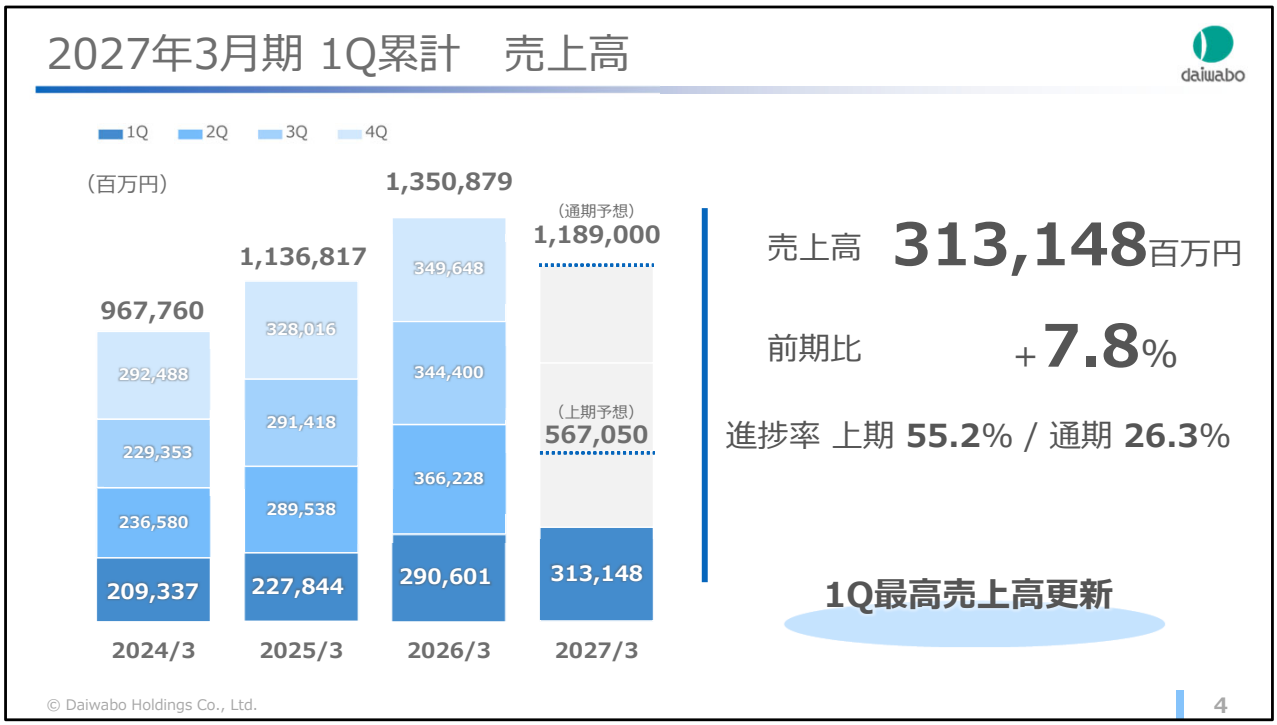
連結決算のハイライトです。
メモリ価格が高騰し、市場の見通しが不透明な中でも、連結売上高は3,131億円、
連結営業利益は77億円となりました。
売上は特需のあった前年を上回る実績となり、営業利益はほぼ計画通りに推移し、
通期計画の達成に向けて順調なスタートとなっています。
これより詳しく説明いたします。



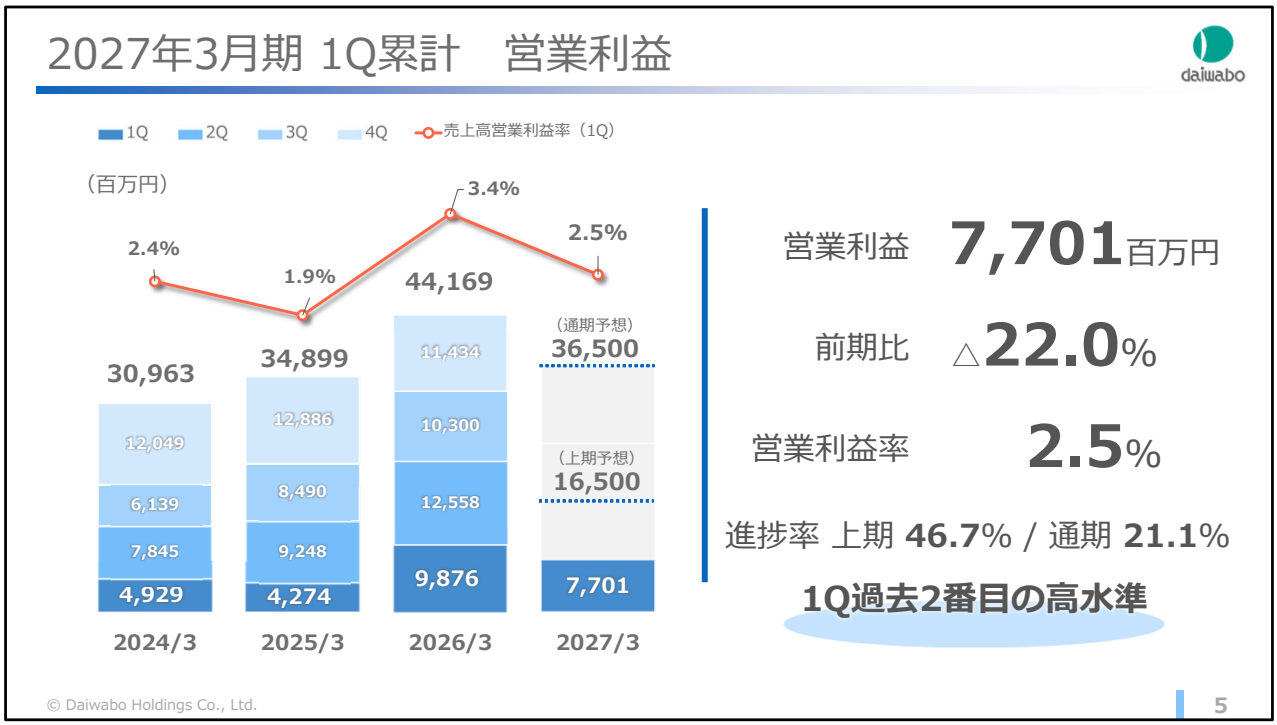
連結では、ITインフラ流通事業において、メモリ価格高騰の影響がありましたが、売上高は好調に推移しました。営業利益は第2四半期以降も計画通りの見通しとなります。また、中長期戦略『2030 VISION』の実現に向けて、次期中期経営計画の具体的な策定に着手しています。

ITインフラ流通事業では、データセンター投資関連の大型案件を複数獲得しました。収益性は前年同期比で減少したものの売上高の増加に寄与しています。
特にPCにおいて、今後の値上げを見据えた戦略的な仕入を進め、商品供給および利益の安定化を図りました。文教向けは高校・校務向けの大型案件を獲得し増収です。

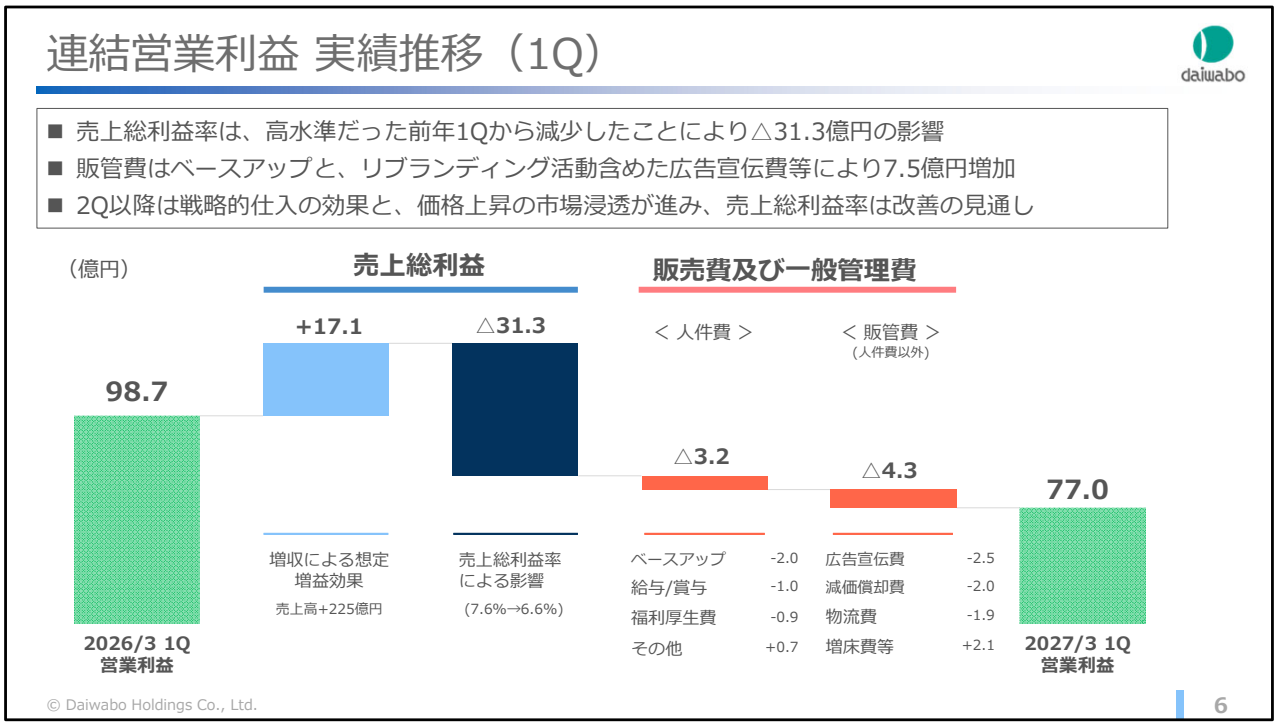
産業機械事業では、主力の航空機業界に加えて造船やエネルギー業界も好調を維持しています。工作機械事業の受注高は大幅に増加しました。今後の需要増加に備え、新機能の開発やサービス人員の増員などで事業体制を強化しています。



連結売上高は3,131億円、前期比プラス7.8%となりました。
進捗率は上期55.2%と好調に推移しています。



連結営業利益は77億円です。特需の影響で好調だった前期と比較すると、マイナス22%となりました。
営業利益率は2.5%と減少しましたが、進捗率は上期46.7%で、過去2番目の実績となります。



営業利益の推移についてご説明いたします。
売上高プラス225億円により想定される増益効果はプラス17億1,000万円でしたが、前年の第１四半期が高水準であったことから売上総利益率が減少し、31億3,000万円の押し下げ要因となりました。
販売費及び一般管理費はベースアップと広告宣伝費などにより、合計で7億5,000万円増加しています。
以上の結果、第１四半期の営業利益は77億円となりました。

2027年3月期 1Q累計　連結決算概況

（百万円）	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減	前期比	上期計画	進捗率
売上高	290,601	**313,148**	+22,547	+7.8%	567,050	55.2%
営業利益	9,876	**7,701**	△2,174	△22.0%	16,500	46.7%
経常利益	10,111	**7,873**	△2,237	△22.1%	16,600	47.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,195	**5,795**	△1,399	△19.5%	11,400	50.8%
1株当たり四半期純利益（円）	80.19	**66.82**	△13.37	△16.7%		

（百万円）	2026/3	2026/6	増減	主な増減理由
総資産	462,072	**476,946**	+14,873	商品及び製品の増加
純資産	169,829	**169,761**	△67	自己株式の取得
自己資本比率	36.8%	**35.6%**	△1.2%	

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第１四半期累計の連結決算概況についてご説明します。
売上高、営業利益はご説明の通りです。
総資産は4,769億円、3月末比でプラス148億円となりました。
主な増減理由は商品及び製品の増加です。
純資産は1,697億円、主な増減理由は自己株式の取得です。
自己資本比率は35.6%となります。

2027年3月期 1Q累計　セグメント別業績

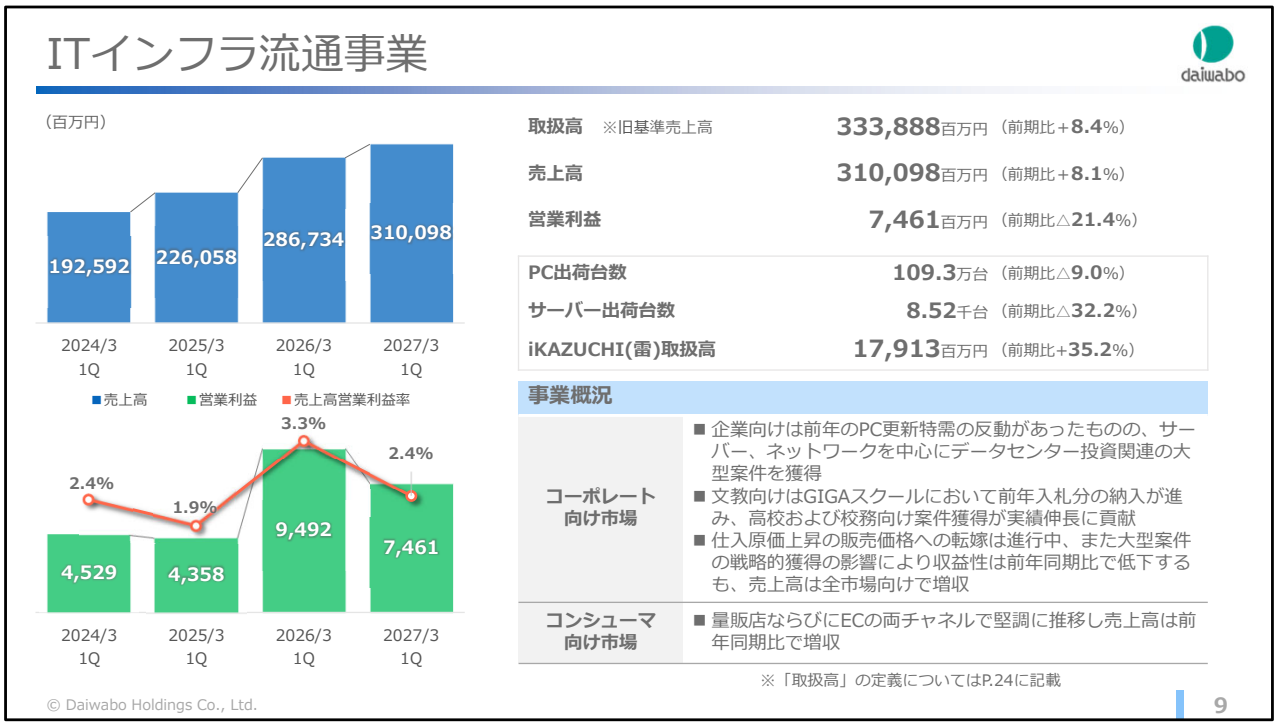
■ 売上高は、ITインフラ流通事業でサーバーやネットワーク、ソフトウェアの販売伸長により増収
■ 営業利益は、ITインフラ流通事業で高水準だった前年1Qから売上総利益率が減少、産業機械事業の減益もあり前年を下回る

(百万円)		2026/3 1Q	2027/3 1Q	率	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	286,734	**310,098**		+23,364	+8.1%
	産業機械	3,866	**3,050**		△816	△21.1%
	合計	290,601	**313,148**		+22,547	+7.8%
営業利益	ITインフラ流通	9,492	**7,461**	**2.4%**	△2,030	△21.4%
	産業機械	379	**236**	**7.8%**	△143	△37.7%
	(調整額)	4	3		△1	△23.1%
	合計	9,876	**7,701**	**2.5%**	△2,174	△22.0%

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

セグメント別業績の状況についてご説明します。
ITインフラ流通事業の売上高は、3,100億円、営業利益は74億円です。
サーバーやネットワーク、ソフトウェアの販売伸長が増収の要因となりました。利益については、好調だった前年から減少していますが、計画通り推移しています。

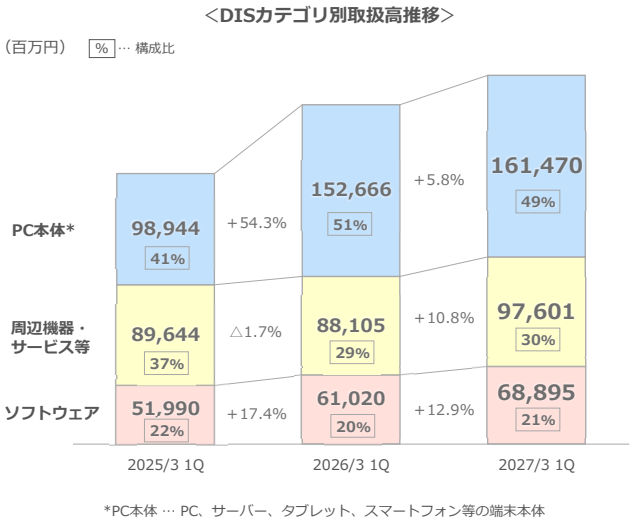
産業機械事業の売上高は30億円、営業利益は2億円です。
前年の大型機の計上がカバーできず減収減益となります。



ITインフラ流通事業についてご説明します。
PC出荷台数は109万台、前期比マイナス9%です。前年のPC更新特需の影響で減少していますが、高い水準を維持しています。
サーバー出荷台数は、マイナス32%と大幅に減少しております。
iKAZUCHI取扱高は179億円、前期比プラス35.2%となりました。

事業概況は、企業向けにデータセンター投資関連の大型案件獲得しており、サーバーやネットワークの実績が増加しています。
文教向けではGIGAスクールの納入が進み、高校や、校務向けの案件も獲得しています。
コンシューマ向けは量販店とECの両チャネルで堅調に推移しました。

商品カテゴリ別 取扱高（1Q）



2027年３月期1Q （金額）

PC本体

- PC … △4.1%
- サーバー … +61.0%

周辺機器・サービス等

- ネットワーク … +38.3%
- ストレージ … +24.5%
- モニター … △14.7%
- その他周辺機器 … +1.8%
- サービス&サポート … +3.4%

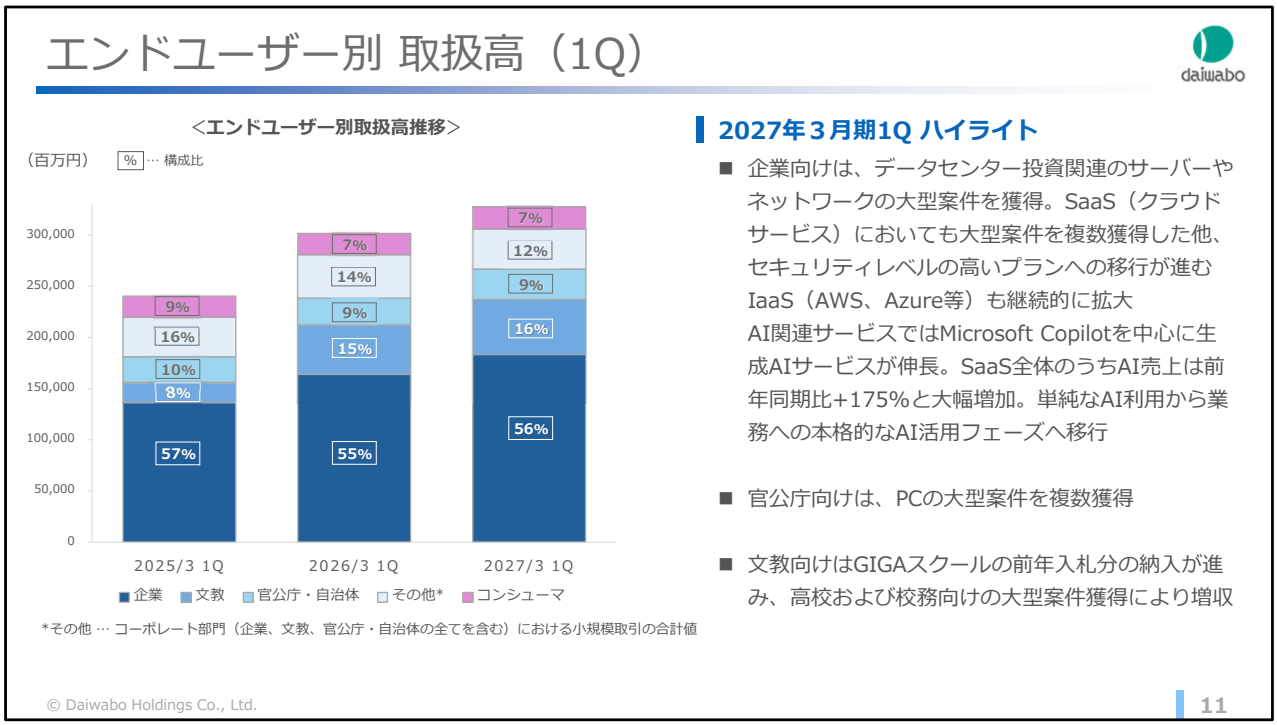
ソフトウェア

- ソフトウェア(クラウド以外) … +2.7%
- ソフトウェア(クラウド) … +28.5%
- iKAZUCHI（雷）** … +35.2%

** iKAZUCHI（雷）はクラウドの内数

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

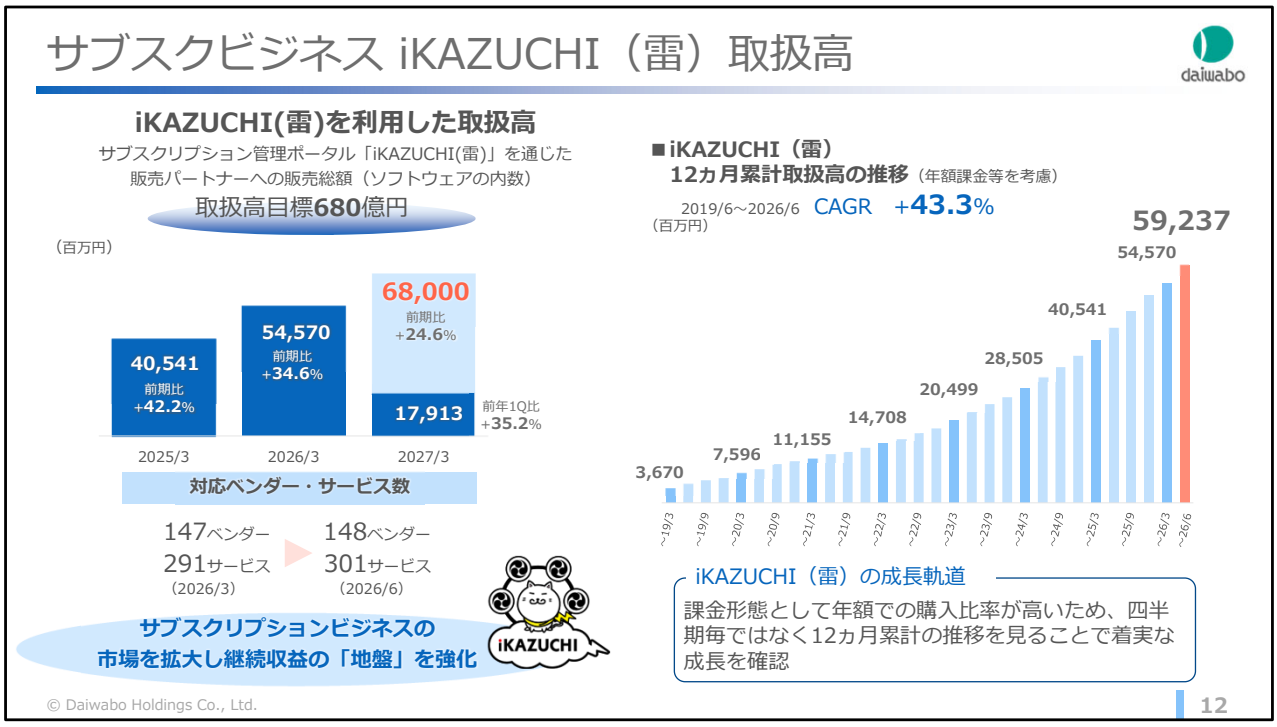
こちらは、商品カテゴリ別の取扱高実績です。
PCは、取扱高で見るとマイナス4%です。台数はマイナス9%なので、価格上昇の影響もあり、平均単価が上昇しています。
サーバーは、プラス61%です。台数はマイナス32%でしたので、こちらもメモリ価格高騰の影響が強く出ており、販売価格が上がっています。
ネットワーク、ストレージ、iKAZUCHI（雷）の実績が大型案件獲得もあり大幅に増加しています。



エンドユーザー別の取扱高推移についてご説明します。
第１四半期の構成はグラフの通りとなり、全市場で前年を超える実績となりました。

SaaSにおいても大型案件を複数獲得した他、セキュリティレベルの高いプランへの移行が進んでいます。IaaSも継続的に拡大しています。
AI関連サービスではMicrosoft Copilotを中心に生成AIサービスが伸長しました。
SaaS全体のうちAI売上は前年同期比プラス175%と大幅増加しました。単純なAI利用から業務への本格的なAI活用フェーズへ移行しています。
以上の結果、企業向けでは前年を上回る結果となりました。

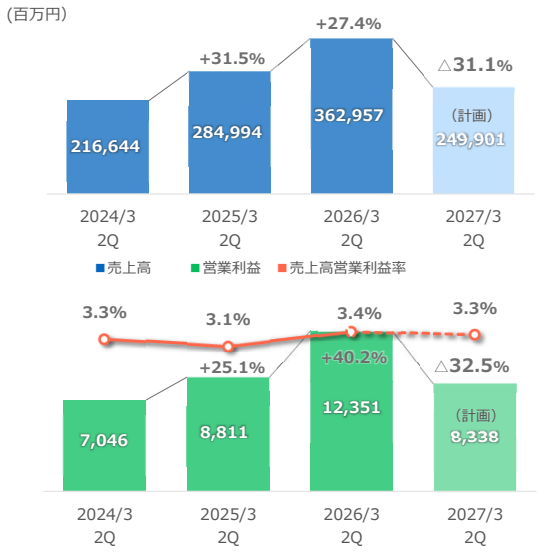
文教、官公庁向けも好調に推移しています。



iKAZUCHIの実績です。
先ほど説明の通り、SaaS、IaaSおよびAI関連の需要が増加し、プラス35%の179億円となります。
今期目標の680億円に向けて順調に推移しています。

取り扱いベンダー数やサービスメニューの件数も着実に増えており、ストックビジネスとしての安定基盤確立に向けて、継続して拡大に取組んでいます。

ITインフラ流通事業　2Q（7月～9月）予想



2Q以降の見通しについて

■ **収益性の見通し**

価格上昇の市場認識が広がっており、2Q以降は価格転嫁が進むことに加え、戦略的な仕入による商品供給・価格の安定化を図っていることから、営業利益率は1Qから改善する見通し

■ **業績予想に対する見通し**

2QはPC価格上昇を背景に、売上高は計画超えが見込まれる一方、営業利益は計画通りに進捗する見通し

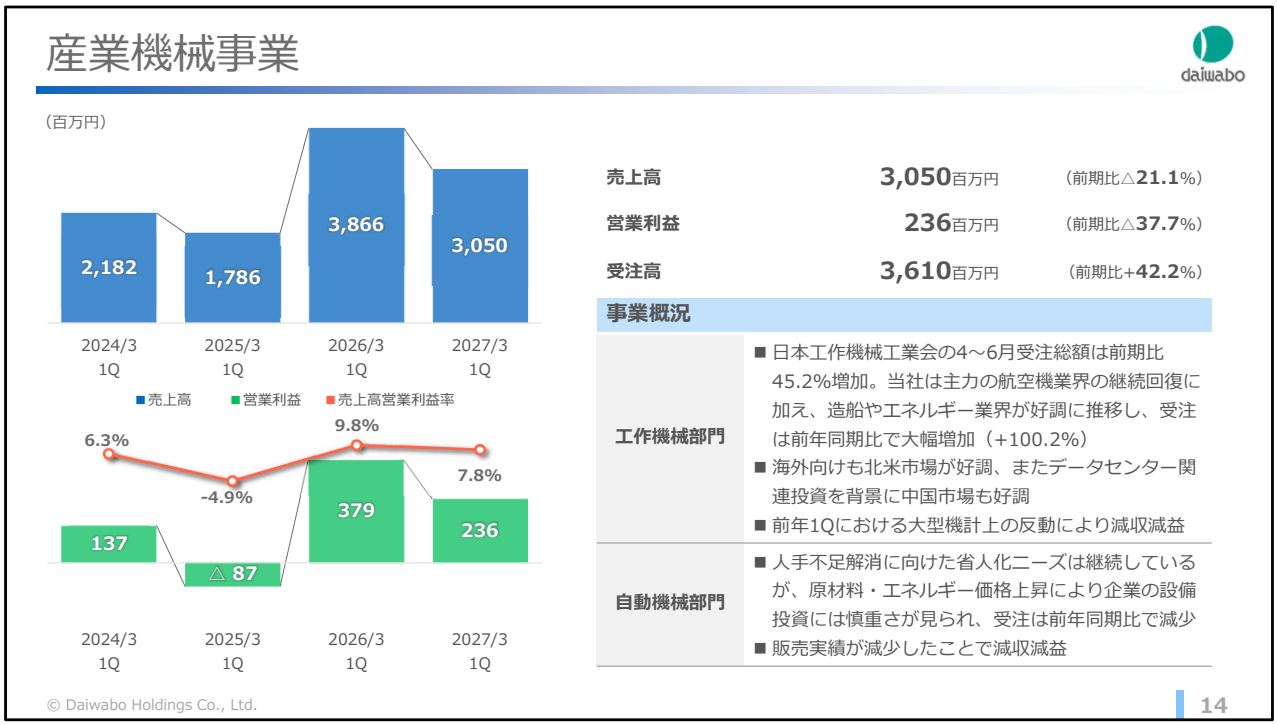
下期以降の市況が不透明な中、状況を注視しており業績予想は5月13日発表数値を維持（業績予想はP.19,20ご参照）

ITインフラ流通事業の季節性について

多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向があるため、直前四半期ではなく前年同四半期との比較情報を開示

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

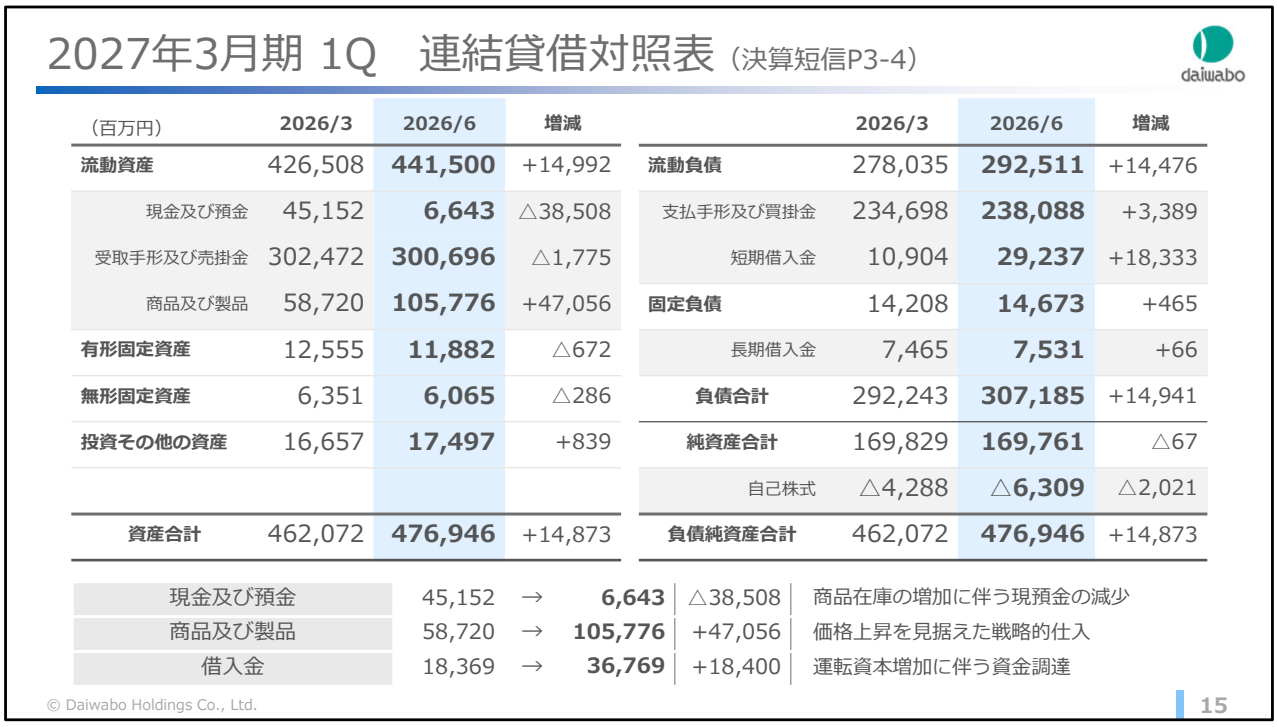
ITインフラ流通事業の第２四半期 の予想についてご説明します。
第１四半期の実績およびPC価格上昇もあり、売上高の計画達成は十分可能であると見込んでいます。
営業利益については、計画通りの見通しです。
戦略的な仕入れによる商品供給と価格の安定化を図っており、利益率の改善を目指しています。



産業機械事業についてご説明します。
売上高は30億円、営業利益は2億円です。
受注高は36億1,000万円、前期比プラス42.2%となりました。

主力の航空機業界の継続回復に加え造船やエネルギー業界が好調に推移しました。
海外向けも北米市場が好調であり、またデータセンター関連投資を背景に中国市場が好調でした。
工作機械部門の受注は前年同期比で大幅に増加しています。
自動機械部門では省人化ニーズは継続している一方で原材料・エネルギー価格上昇により企業の設備投資に慎重さが見られ、受注が前年同期比で減少しました。

以上により、産業機械事業では減収減益となりました。



2027年3月期 1Q　連結貸借対照表（決算短信P3-4）

（百万円）	2026/3	2026/6	増減
流動資産	426,508	**441,500**	+14,992
現金及び預金	45,152	**6,643**	△38,508
受取手形及び売掛金	302,472	**300,696**	△1,775
商品及び製品	58,720	**105,776**	+47,056
有形固定資産	12,555	**11,882**	△672
無形固定資産	6,351	**6,065**	△286
投資その他の資産	16,657	**17,497**	+839
資産合計	462,072	**476,946**	+14,873

	2026/3	2026/6	増減
流動負債	278,035	**292,511**	+14,476
支払手形及び買掛金	234,698	**238,088**	+3,389
短期借入金	10,904	**29,237**	+18,333
固定負債	14,208	**14,673**	+465
長期借入金	7,465	**7,531**	+66
負債合計	292,243	**307,185**	+14,941
純資産合計	169,829	**169,761**	△67
自己株式	△4,288	**△6,309**	△2,021
負債純資産合計	462,072	**476,946**	+14,873

現金及び預金	45,152	→	**6,643**	△38,508	商品在庫の増加に伴う現預金の減少
商品及び製品	58,720	→	**105,776**	+47,056	価格上昇を見据えた戦略的仕入
借入金	18,369	→	**36,769**	+18,400	運転資本増加に伴う資金調達

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

第１四半期の連結貸借対照表についてご説明します。
資産合計は、4769億円、148億円の増加です。
現金及び預金は66億円、商品在庫の増加に伴い減少となりました。
商品及び製品は1,057億円、主にPCの価格上昇を見据えた戦略的な仕入を行っています。

負債合計は3,071億円。借入金の合計が184億円増加しています。こちらは、DISの運転資本増加に伴う資金調達が要因です。

純資産合計は1,697億円、自己株式の取得を20億円行っています。

2027年3月期 1Q累計　連結損益計算書（決算短信P5）

（百万円）	2026/3 1Q		2027/3 1Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	290,601		**313,148**		+22,547	+7.8%
売上総利益	22,099	7.6%	**20,682**	**6.6%**	△1,417	△6.4%
販売費及び一般管理費	12,222	4.2%	**12,980**	**4.1%**	+757	+6.2%
営業利益	9,876	3.4%	**7,701**	**2.5%**	△2,174	△22.0%
経常利益	10,111	3.5%	**7,873**	**2.5%**	△2,237	△22.1%
特別利益	270		**566**		+295	–
特別損失	0		**0**		0	–
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,195	2.5%	**5,795**	**1.9%**	△1,399	△19.5%

特別利益　物流センターに関連する固定資産売却益

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結損益計算書の状況はこちらです。
売上総利益率が1%減少しています。前年が特に好調だったこともありますが、大型案件の増加や、一部において仕入原価上昇の価格転嫁が遅れた影響もあり、前年と比較すると減少となります。

販売費及び一般管理費は129億円で予定通り進捗しています。

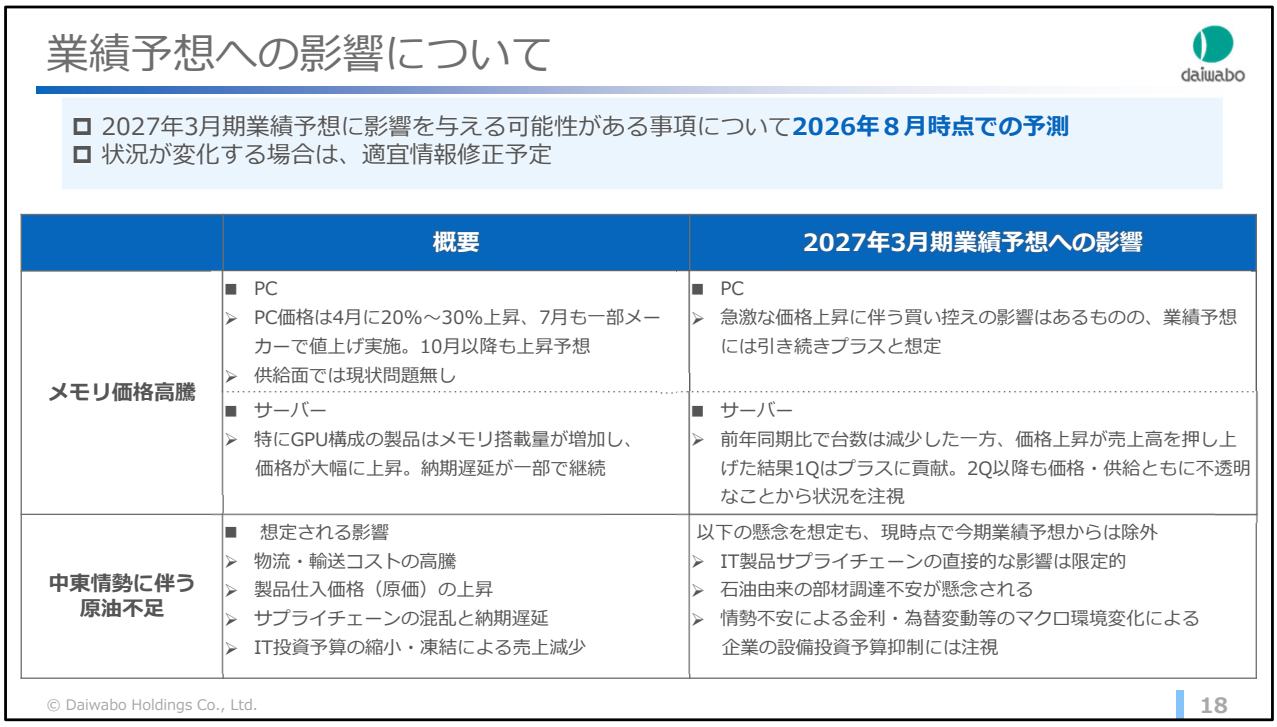
特別利益は5億6,600万円、DISの物流センターに関連する固定資産売却益が含まれます。

親会社株主に帰属する四半期純利益は57億円です。

2027年3月期 通期業績予想

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続きまして、 2027年3月期の業績予想です。



今期業績予想に与える主な影響について現時点の状況をご説明いたします。まず、メモリ価格高騰の影響です。

PCでは4月に20%～30%上昇し、7月も一部メーカーで値上げが実施されました。10月にも上昇が見込まれています。供給面では現状問題ありません。
急激な価格上昇に伴う買い控えの影響はあると想定していますが、通期業績予想には引き続きプラスと想定しており、5月から大きな変更はありません。

サーバーでは価格が大幅に上昇しており、納期遅延は一部で継続しています。第２四半期以降も価格・供給ともに不透明なことから状況を注視してまいります。

次に中東情勢に伴う原油不足の影響については、5月から変更ありません。そのため、今期業績予想には引き続き含めておりません。

2027年3月期 上期業績予想 変更なし

(百万円)	2026/3 上期（実績） 金額	率	2027/3 上期（予想） 金額	率	増減	前期比
売上高	656,830		**567,050**		△89,780	△13.7%
ITインフラ流通	649,692		**560,000**		△89,692	△13.8%
産業機械	7,137		**7,050**		△87	△1.2%
営業利益	22,435	3.4%	**16,500**	**2.9%**	△5,935	△26.5%
ITインフラ流通	21,843	3.4%	**15,800**	**2.8%**	△6,043	△27.7%
産業機械	585	8.2%	**700**	**9.9%**	＋114	＋19.5%
経常利益	22,608	3.4%	**16,600**	**2.9%**	△6,008	△26.6%
親会社株主に帰属する中間純利益	15,736	2.4%	**11,400**	**2.0%**	△4,336	△27.6%
1株当たり中間純利益（円）（EPS）	176.04		**131.16**		△44.88	△25.5%

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは、上期の業績予想です。5月の数値から変更ありません。
繰り返しとなりますが、第１四半期の実績から、売上高は好調に推移しており、営業利益は計画通りの見通しです。

2027年3月期 通期業績予想 変更なし

(百万円)	2026/3 (実績) 金額	率	2027/3 (予想) 金額	率	増減	前期比
売上高	1,350,879		**1,189,000**		△161,879	△12.0%
ITインフラ流通	1,336,479		**1,174,500**		△161,979	△12.1%
産業機械	14,400		**14,500**		+99	+0.7%
営業利益	44,169	3.3%	**36,500**	**3.1%**	△7,669	△17.4%
ITインフラ流通	43,030	3.2%	**35,000**	**3.0%**	△8,030	△18.7%
産業機械	1,127	7.8%	**1,500**	**10.3%**	+372	+33.1%
経常利益	44,943	3.3%	**36,700**	**3.1%**	△8,243	△18.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	32,030	2.4%	**25,300**	**2.1%**	△6,730	△21.0%
1株当たり当期純利益（円）（EPS）	362.07		**291.09**		△70.98	△19.6%

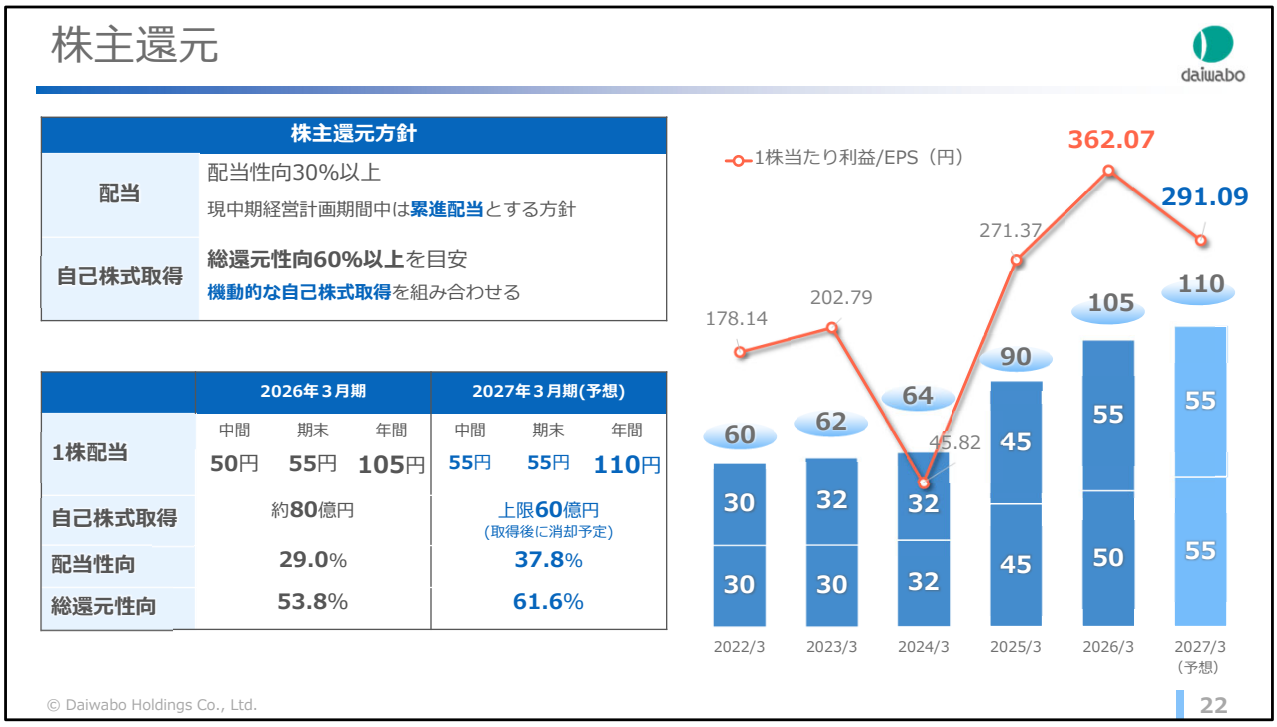
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは通期の業績予想です。
こちらも5月発表の数値から変更はありません。

株主還元

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続いて、株主還元についてご説明いたします。



配当については、中間配当55円、期末配当55円の通期110円の配当を予定しております。
自己株式取得は60億円を上限に実施しており、10月中旬に完了する予定です。
6月末時点で、20億円の取得を行っております。

引き続き、安定的な還元を実施して参ります。

説明は以上です。
ご清聴いただきありがとうございました。

参考資料

- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 事業概要
- 業績推移グラフ
- 株価推移

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

（補足）ITインフラ流通事業の「取扱高」について

取扱高
Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
  （＝会計基準変更前の売上高）
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価

「収益認識に関する会計基準」
適用による影響額
（2022/3期～）

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

売上高
Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

グループの沿革

1941. 4	錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
1949. 5	大和紡績が東証1部上場
1949. 7	大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立 →その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
1971.11	オーエム製作所が東証1部上場
1982. 4	大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
2000. 9	ダイワボウ情報システムが東証1部上場
2009. 4	大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
2009. 7	大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更 繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
2011. 7	ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合　⇒**3事業体制へ**
2024. 3	株式譲渡により**大和紡績が独立**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業　事業戦略

1 業界リーダー企業としてコア領域の深化

- **特需反動による端末ビジネスの落ち込み抑制**（AI PC市場とGIGA第2期の残存需要獲得）
- **次世代インフラビジネス領域の成長**（IT運用負荷軽減に向けたマネージドサービス提案）

2 成長分野であるクラウド領域でのシェア拡大

- **IaaS/PaaS領域の成長基盤強化**（AWS/Azure/Google Cloudの提案）
- **SaaS市場シェア拡大**（iKAZUCHI(雷)掲載サービスのプロモーション強化）

3 DX推進による販売パートナーリレーションシップ強化

- **販売パートナーの生産性向上**(オリジナルサービス提供を通じた技術者不足の解消支援)
- **先進テクノロジーの展開による事業領域拡大**（国内未展開の海外ベンダーを開拓）

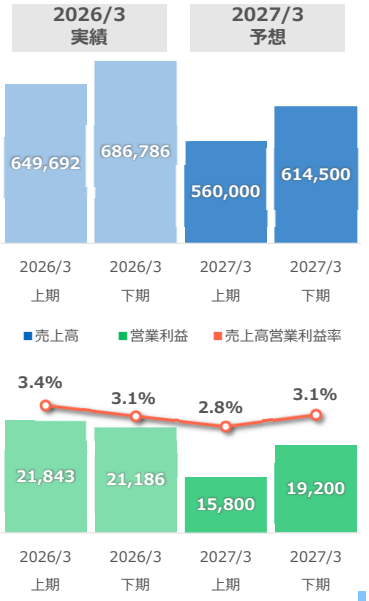
4 戦略的投資の実行

- **事業強化に向けた投資**（次期システムの検討）
- **業界最適化に向けた投資**(IT流通全体の効率化を見据えた次世代物流戦略の検討等)

5 DISバリュー向上につながる企業ブランディング

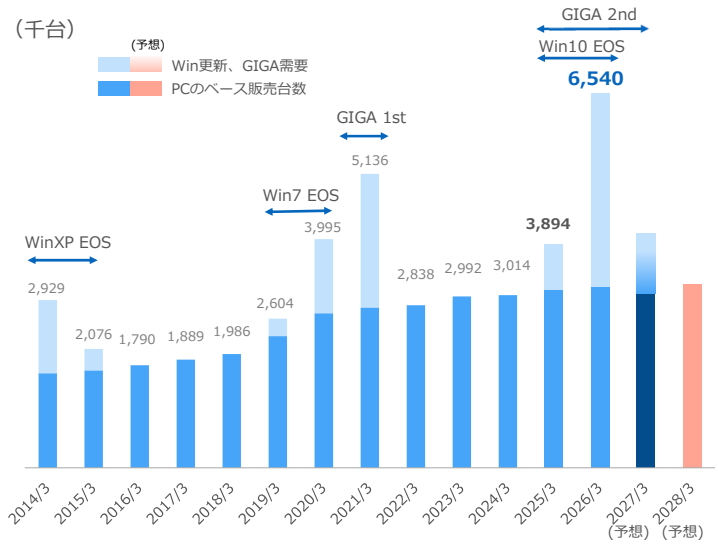
- **企業ブランドの再構築**(社名変更を含めたリブランディングプロジェクト推進)
- **DISの社会認知度向上**（メディア活用による発信の拡充）

（百万円）



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

PC出荷台数イメージ



PCの出荷状況

- 27/3期はWindows更新需要が終了し、企業向けは26/3期比で約90万台減少

GIGAスクール第2期 端末更新

- 25/3～27/3期に全国で約1,000万台の需要があり、すでに約70%が更新されたと想定
- PC＋タブレットや関連製品・サービス等を含めた当社の今期取扱高は**約600億円**を目標に活動
- 2027年3月期入札も順次進んでいるが、メモリ価格高騰によりGIGA対象端末も価格が上昇。今後納入が後ろ倒しになる可能性もあり、販売パートナーと連携して状況を注視

2028年3月期以降 当社国内PC市場予想

- 今後も企業のDX投資を背景に底堅い需要は継続、AI PCの市場浸透が期待される
- メモリ価格や原油高を受けたIT製品価格の上昇に伴う需要減退には注視が必要

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982　DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984　多店舗展開

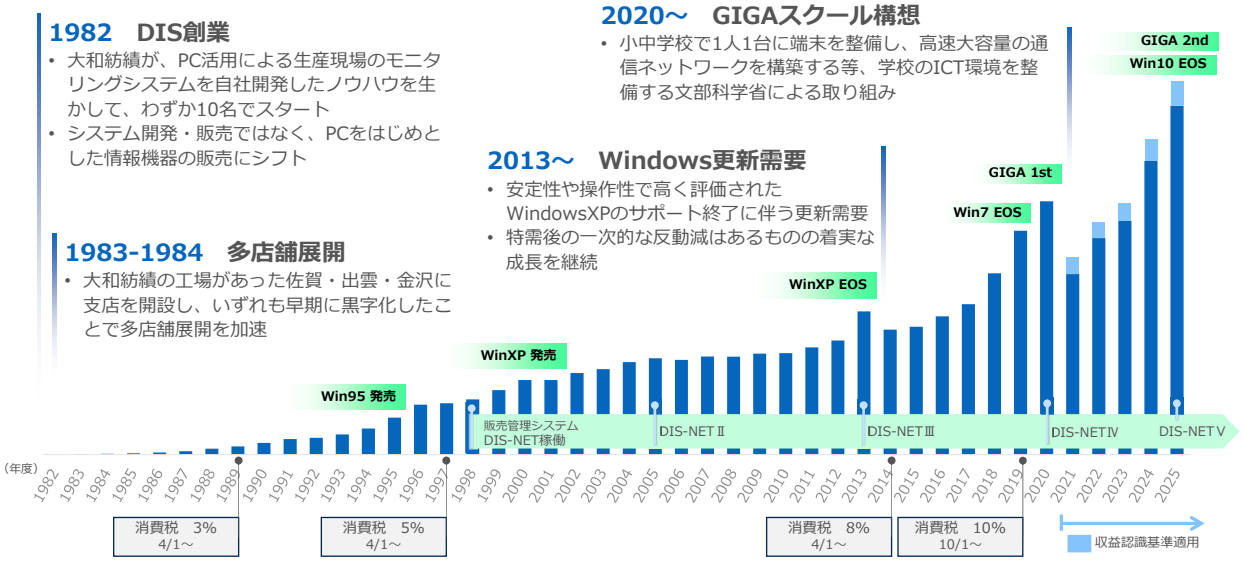
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

2020～　GIGAスクール構想

- 小中学校で1人1台に端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築する等、学校のICT環境を整備する文部科学省による取り組み

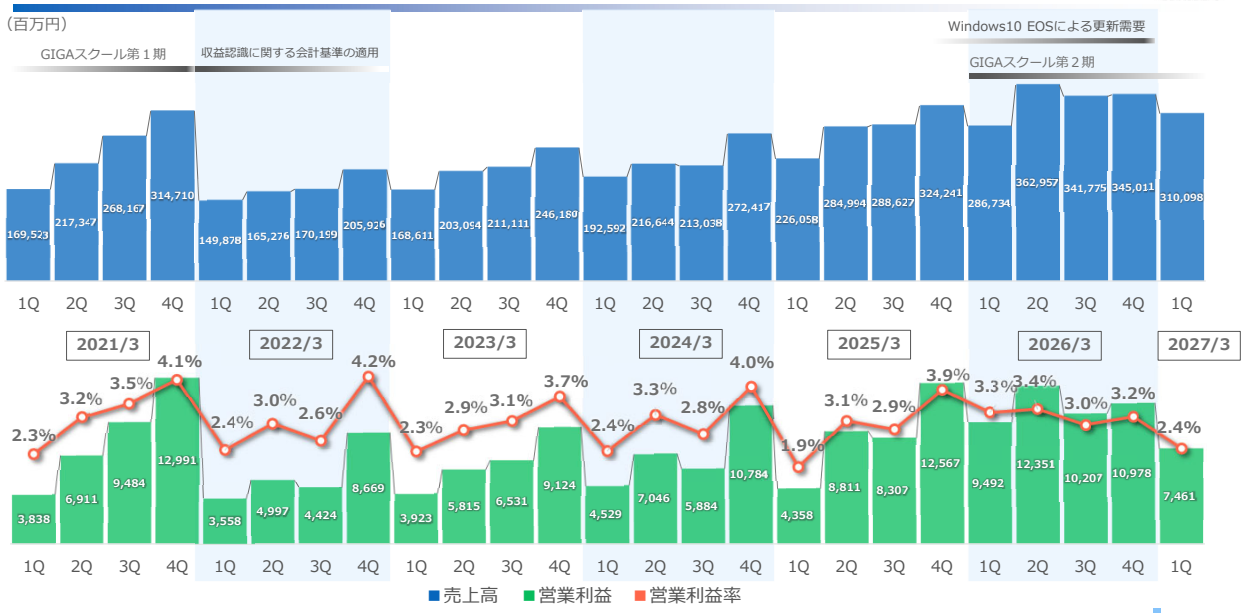
2013～　Windows更新需要

- 安定性や操作性で高く評価されたWindowsXPのサポート終了に伴う更新需要
- 特需後の一次的な反動減はあるものの着実な成長を継続



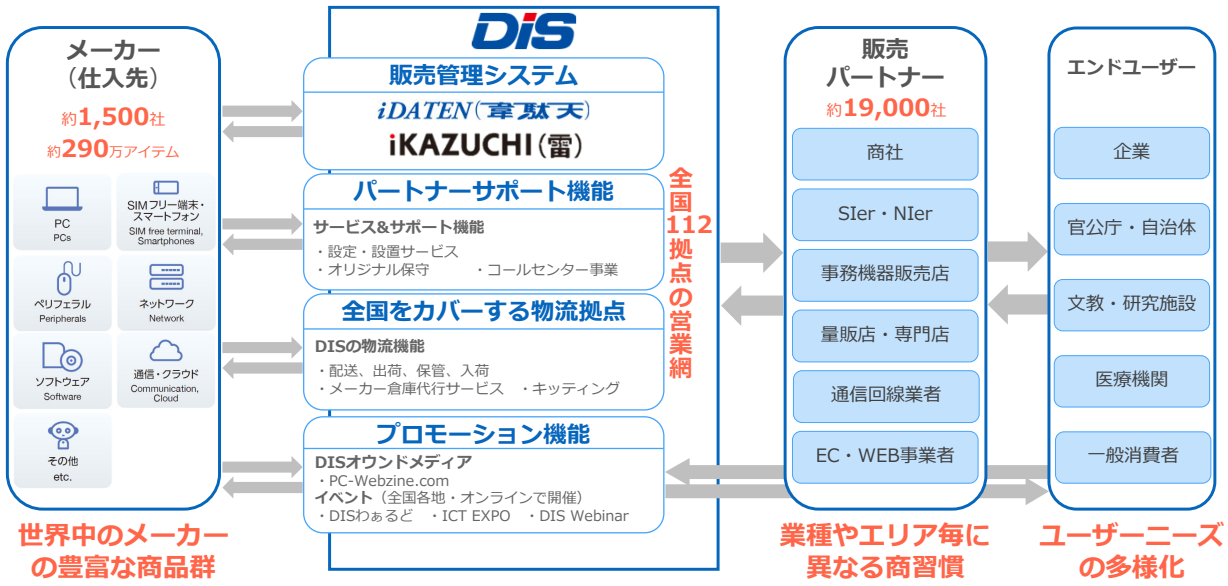
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業　四半期別 業績比較



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業の事業構造



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ディストリビューターの役割と付加価値

メーカー
（仕入先）

約1,500社　約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

一本化・協業・代行

DISの役割

一本化・協業・代行

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

販売パートナー

約19,000社

- **全国112拠点の営業網**
- **物流センター**
- **商品選定・提案**
- **市場ニーズの把握**
- **キッティング**
- **保守サポート**

DISの営業網を活用し販路拡大・販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズを連携し、メーカーの生産計画やプロモーションに反映**
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約に加えて、キッティングや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網を提供**

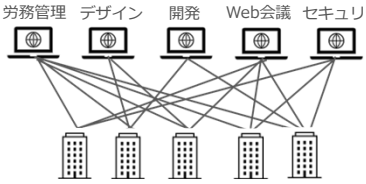
DISの機能を有効に活用することで自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキッティングや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

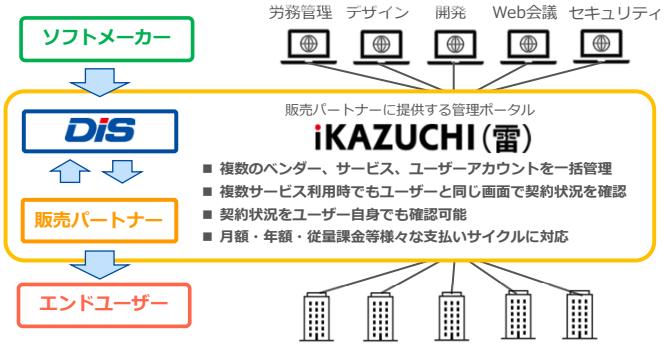
iKAZUCHI（雷）によるサブスク管理

複数サービスを直接利用している状態

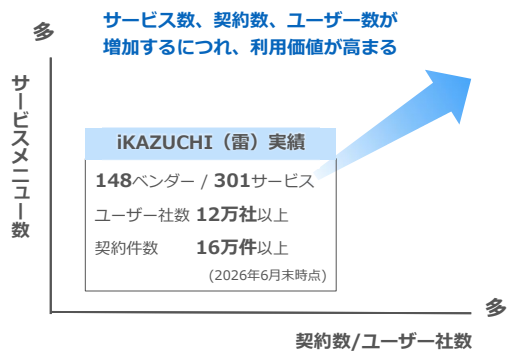


新規契約・変更・解約、月額・年額・従量課金等
契約管理が複雑化

iKAZUCHI（雷）とはサブスク管理プラットフォーム



iKAZUCHI（雷）がもたらすネットワーク効果



iKAZUCHI（雷）を利用することによって販売パートナーの利便性が向上するだけでなく、ユーザー社数が増えるほどベンダーにとってもiKAZUCHI（雷）にサービス掲載する価値が増加。さらにサービスメニューの増加はユーザーにとっても利用価値が高まる

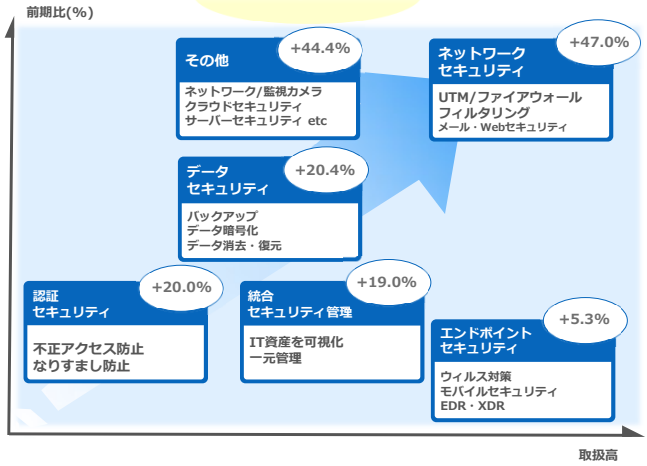
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

セキュリティビジネスの広がり

2025年度 『SCS評価制度』対象商材の当社取扱高実績

経済産業省『サプライチェーン・サイバーセキュリティ(SCS)評価制度』を背景にセキュリティ対策への需要成長が見込まれる

601億円(前期比 +20.0%)



NIST Cyber Security Framework※機能分類に対応した提供サービス・支援を強化

ガバナンス → リスクの特定 → 攻撃の検知 → 攻撃の防御 → インシデント対応 → 復旧

- 現在はSCS評価制度開始に向け、自社の現状分析が中心
- 将来的には評価制度に応じた★取得有無が取引条件へ
- 今後3～5年で★取得に向けた対策商材の導入案件は増加見込

※米国国立標準技術研究所(NIST)が提供しているサイバーセキュリティリスクを管理するためのフレームワーク。2024年に2.0へ移行

★取得の定義

★3	★4	★5 (検討中)
【脅威】一般的なサイバー攻撃 【対策】組織・技術を含む基礎対策 【評価】専門家確認付き自己評価	【脅威】大きな被害影響をもたらす企業への攻撃 【対策】組織・技術を含む標準的対策 【評価】第三者評価	【脅威】高度・未知なるサイバー攻撃 【対策】国際規格等に基づく高度な対策 【評価】第三者評価

★取得が取引の共通ものさしに

出所:経済産業省HP「サイバーセキュリティお助け隊サービス(新分類)」
https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/otasuketai_jissho.html

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

物流センター効率化

関西センター（神戸市）

2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）

2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡

東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ロボットストレージシステム
→作業効率・スペース最適化
【ロボット稼働台数】
関東中央：**45**台、関西：**30**台

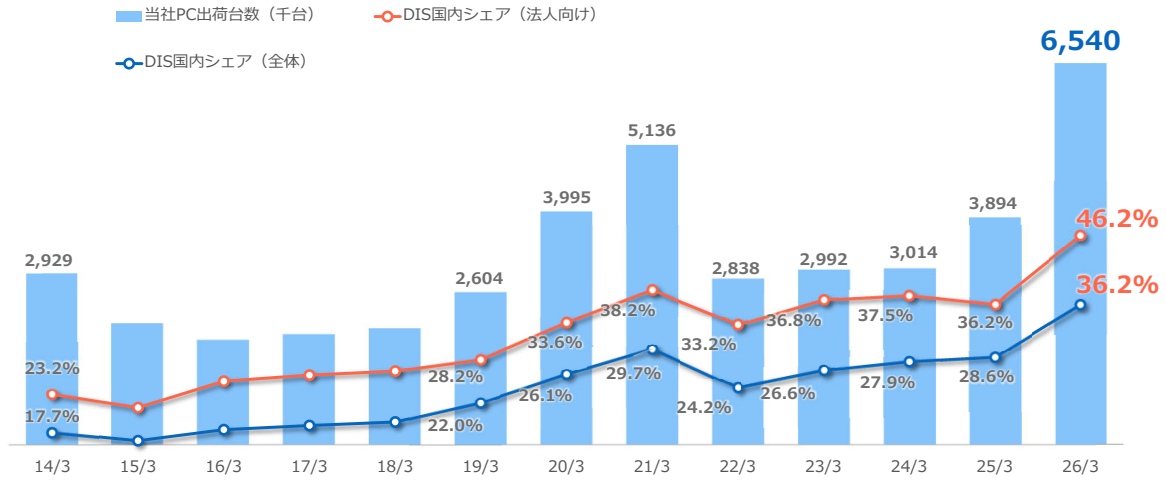
キッティングセンター併設
→入荷＞作業＞出荷に迅速対応
PC・タブレット キッティング実績：年間**48.2**万台（2026/3期）

トラック予約受付システム
→入出荷情報の共有・車両平準化

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

国内PCマーケットシェア

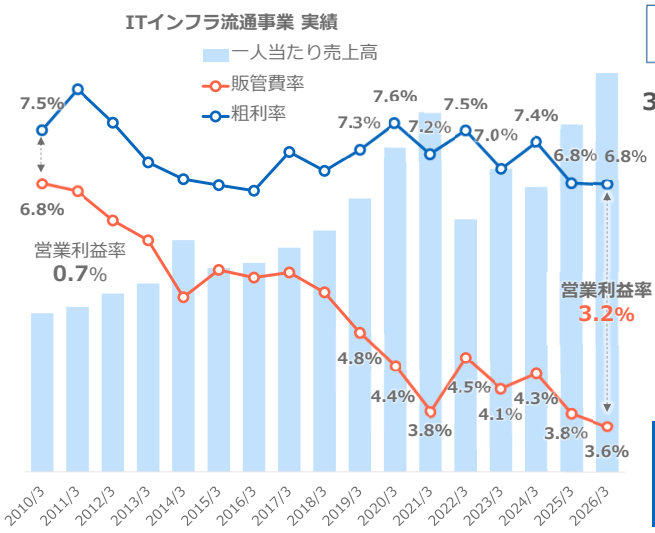
国内PCの 3台に1台以上は当社が関与



※MM総研調査結果より算出

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

営業効率化とローコストオペレーション

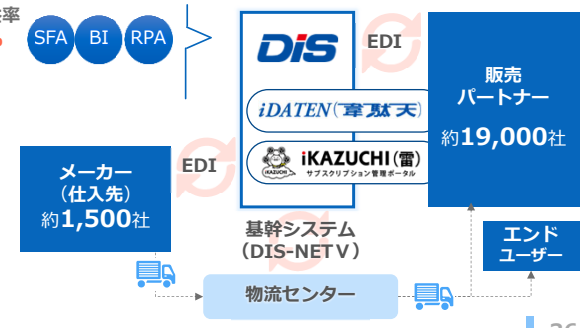


※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3カ年で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDI等の機能強化



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業　事業戦略

オーエム製作所

1 工作機械における売上拡大への取り組み

- **在庫販売戦略の強化**(米国・中国市場における短納期販売の拡大)
- **海外市場の開拓**（有望なアジア地域の市場調査）
- **高精度立旋盤の継続開発・商品化**(航空機・エネルギー業界向け)
- **国内主要業界での更新需要の取り込み**

2 自動機械における収益改善の取り込み

- **生産計画の最適化** (適切な受注リスク評価の継続実施)
- **市場競争力の向上**(ケーサーの販売強化、新機種開発の促進)
- **顧客ニーズに基づく提案型営業の高度化** (食品・製菓・医薬品業界向け)

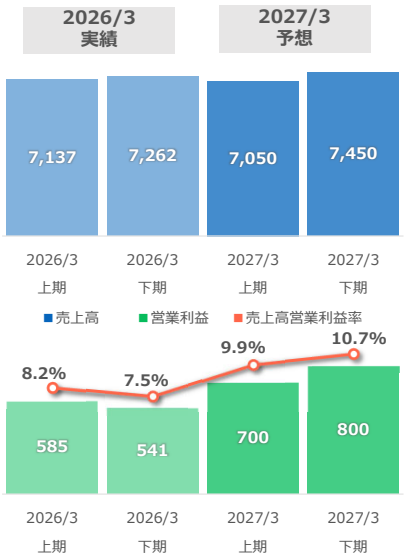
3 サービス体制の強化による収益力向上

- **導入済み製品へのオーバーホール提案**
- **サービス対応の協力企業開拓**

4 人材教育の推進

- **技能教育の拡充による技術力向上**
- **ベテラン知見の継承と若手育成を両立する営業基盤の強化**

（百万円）



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業　― 製品事例 ―

立旋盤

- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,800**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤

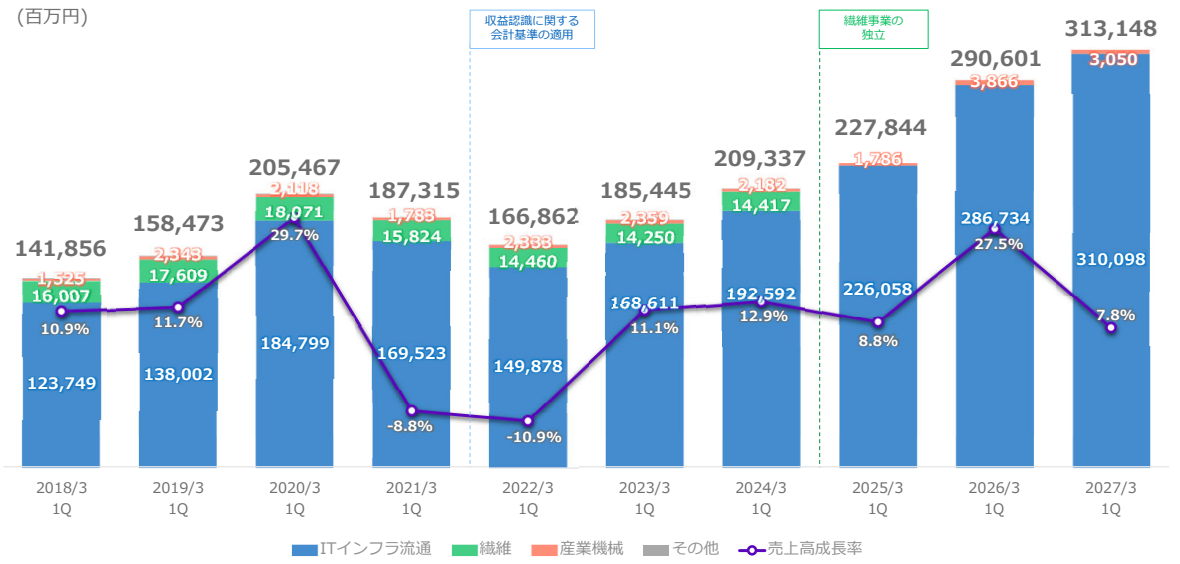
- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

自動機械

- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

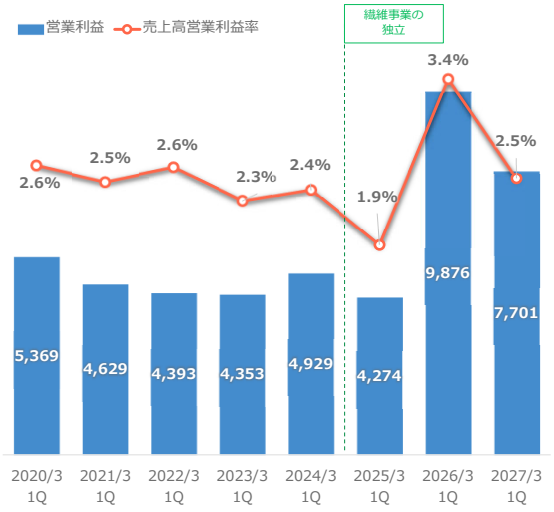
連結売上高（1Q累計期間）



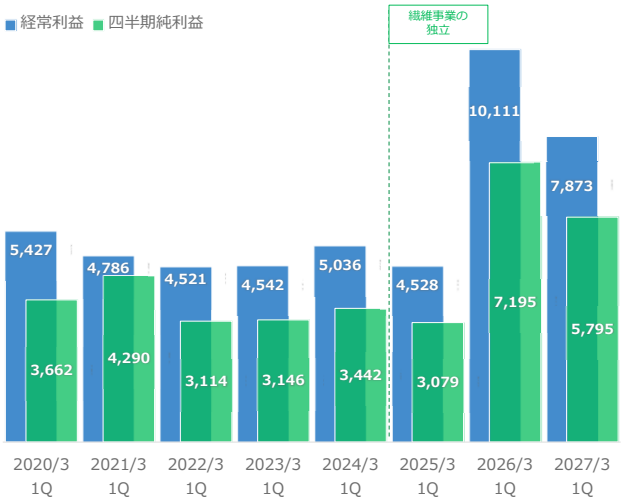
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結営業利益・経常利益・四半期純利益（1Q累計期間）

連結営業利益 (百万円)

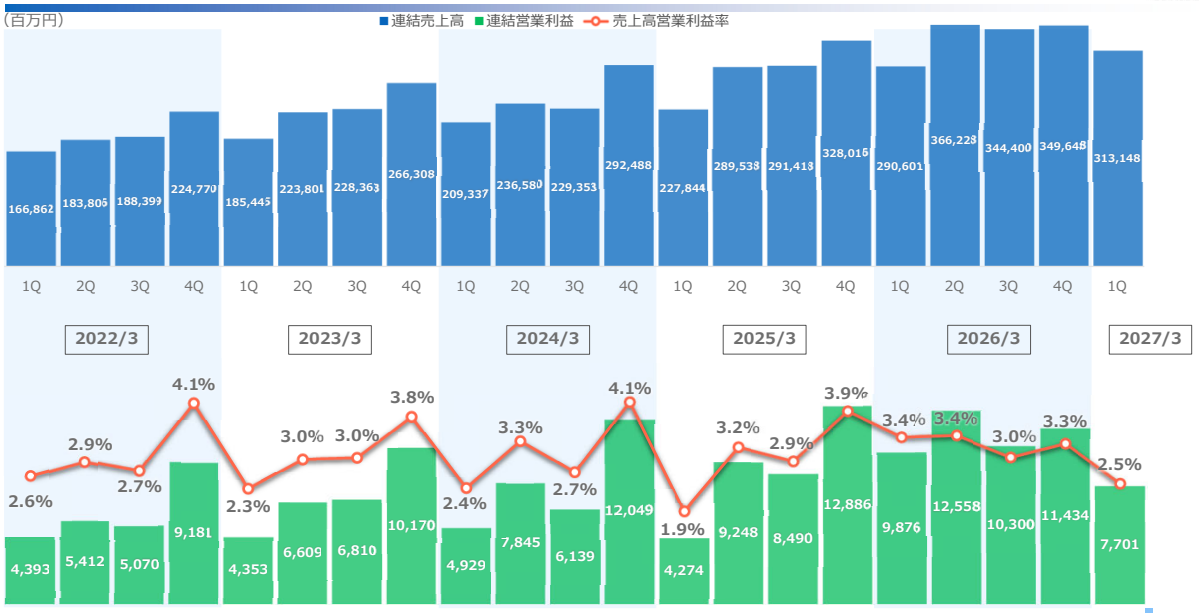


連結経常利益・四半期純利益 (百万円)



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

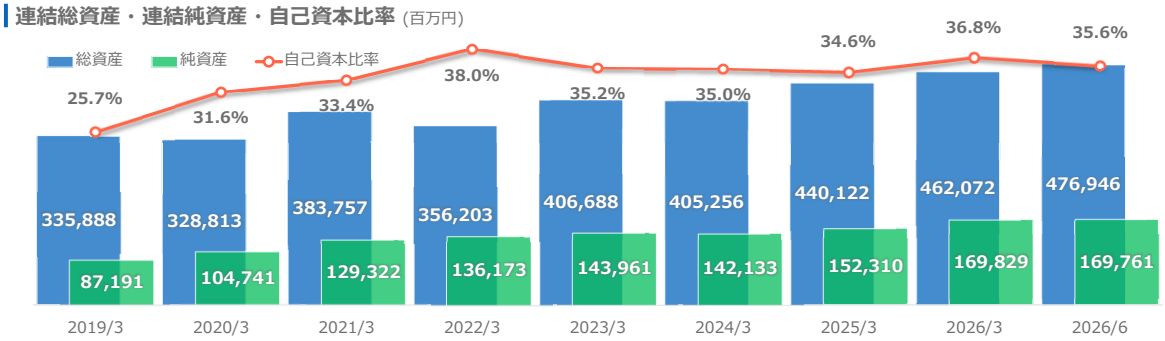
四半期別業績　推移



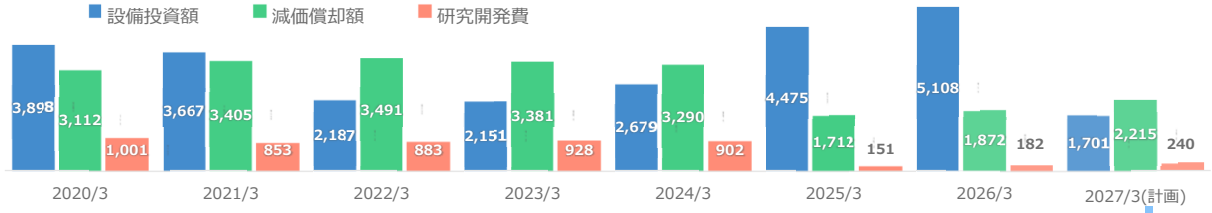
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結業績推移

連結総資産・連結純資産・自己資本比率 (百万円)



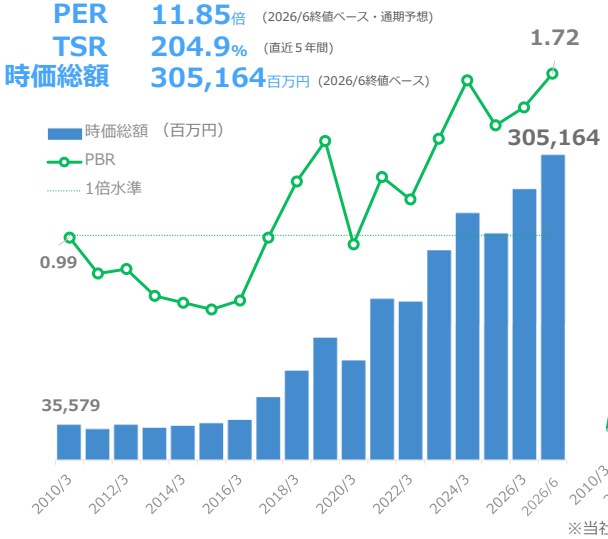
設備投資・減価償却額・研究開発費 (百万円)



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

株価推移

PBR	1.72倍	(2026/6終値ベース・通期予想)
PER	11.85倍	(2026/6終値ベース・通期予想)
TSR	204.9%	(直近５年間)
時価総額	305,164百万円	(2026/6終値ベース)



※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

ダイワボウホールディングス株式会社

本社所在地	〒530-0005　大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト
設立日	大和紡績として創立　1941年4月1日 ダイワボウホールディングス設立　2009年7月1日
連結従業員数	3,072名（2026年3月末現在）
資本金	216億9,674万4,900円
株式	東証プライム市場　証券コード **3107**　／　業種：**卸売業**　**<JPX日経インデックス400構成銘柄>**
事業内容	**ITインフラ流通事業** ［中核会社］ DIS ダイワボウ情報システム株式会社 コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	産業機械事業 ［中核会社］ オーエム製作所 工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス株式会社

https://www.daiwabo-holdings.com/

ニュース
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html
ダイワボウグループ一覧
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html
沿革
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.